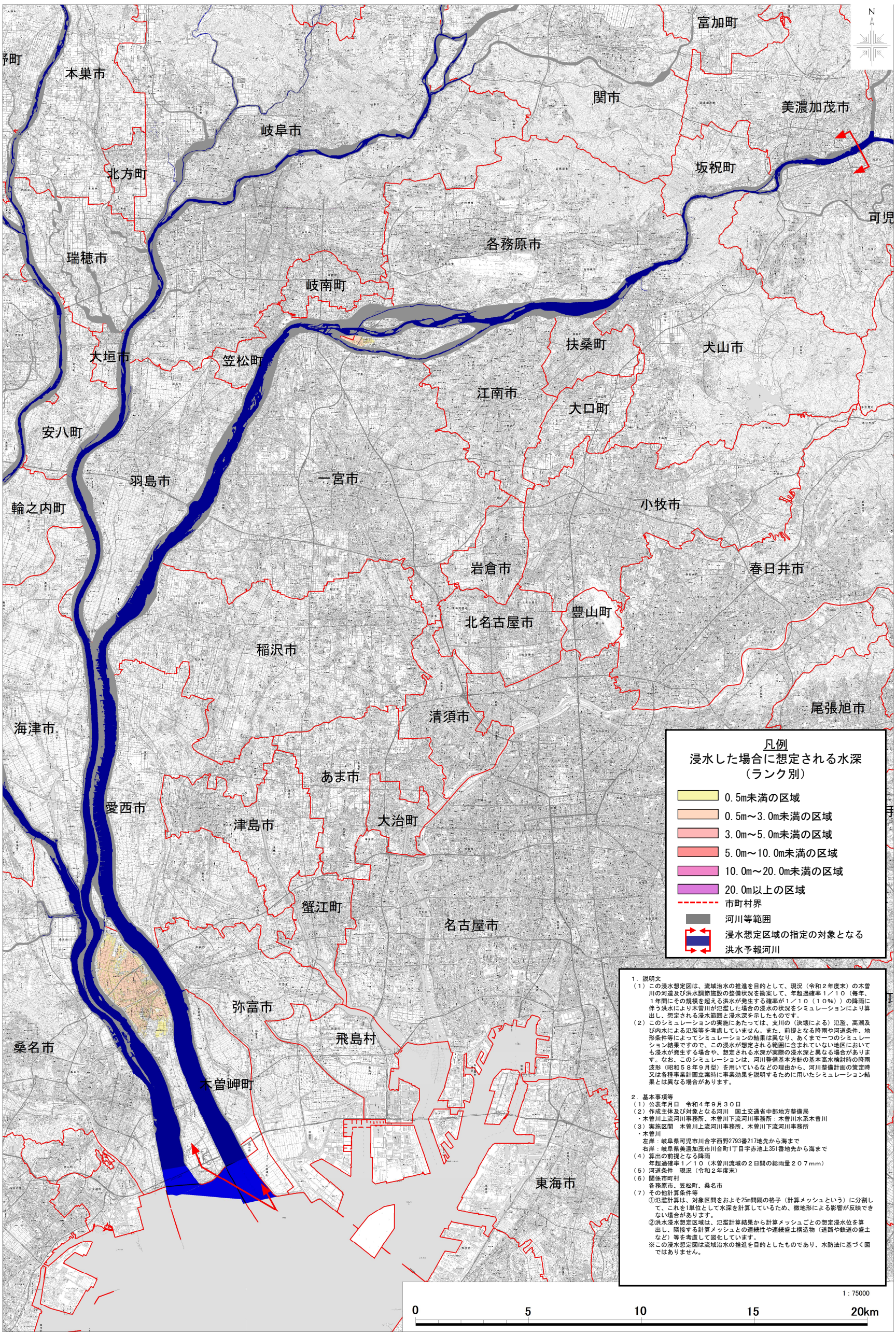
木曽川水系木曽川　国管理河川の浸水想定図（１／１０規模降雨）
【現況河道】



１．説明文

（１）この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、現況（令和２年度末）の木曽川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率１／１０（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１０（１０％））の降雨に伴う洪水により木曽川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出し、想定される浸水範囲と浸水深を示したものです。

（２）このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水が想定される範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（昭和５８年９月型）を用いているなどの理由から、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

２．基本事項等

（１）公表年月日　令和４年９月３０日

（２）作成主体及び対象となる河川　国土交通省中部地方整備局
・木曽川上流河川事務所、木曽川下流河川事務所：木曽川水系木曽川

（３）実施区間　木曽川上流河川事務所、木曽川下流河川事務所
・木曽川
左岸：岐阜県可児市川合字西野2793番217地先から海まで
右岸：岐阜県美濃加茂市川合町1丁目字赤池上351番地先から海まで

（４）算出の前提となる降雨
年超過確率１／１０（木曽川流域の２日間の総雨量２０７mm）

（５）河道条件　現況（令和２年度末）

（６）関係市町村
各務原市、笠松町、桑名市

（７）その他計算条件等
①氾濫計算は、対象区間をおよそ25m間隔の格子（計算メッシュという）に分割して、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
②洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュごとの想定浸水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物（道路や鉄道の盛土など）等を考慮して図化しています。
※この浸水想定図は流域治水の推進を目的としたものであり、水防法に基づく図ではありません。

「国土地理院の電子地形図25000『北方』『岐阜北部』『美濃関』『美濃加茂』『岐阜西部』『岐阜』『犬山』『小泉』『竹鼻』『一宮』『小牧』『高蔵寺』『津島』『清州』『名古屋北部』『瀬戸』『弥富』『蟹江』『名古屋南部』『平針』『桑名』『飛島』『鳴海』『知立』『四日市東部』『大野』『刈谷』『安城』を掲載」「測量法に基づく国土地理院長承認（複製）R4JHf168」
「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」